



- 第二代製材工場 -

1941年嘉義県中埔大地震により初代製材所が倒壊後、日本政府が太平洋戦争の軍事上大量な木材を必要としたニーズを満たすために再建したもの。建物全体が木造で、継ぎ手などの工法を使い、燃料及び木屑コンベアーなどの設備は地下に設置していた。2017年に発掘され、嘉義市歴史建築物に指定された。



- 手編み工場 -

1965年林務局労働者教育第二教育センター設立時に建てられ、様々な竹製品を編む練習を行う場所であった。1969年手編み工場として正式に嘉義竹材工芸品加工場を設立、現在は研修教室として使われている。



- 乾燥室 -

木材製品が完成すると、乾燥室へ運ばれていた。乾燥室は空気を加熱することで湿度が上がり、風速を調節して循環させる熱気乾燥法を採用した。現在、修復がすでに完成した建物は、木材の乾燥過程を展示する空間となっている。嘉義市歴史建築物に指定された。



- クレーン -

首尾にある二つのワイヤロープでできた運搬設備である。資料によると、製材所のクレーン首塔は現在の車庫エリア修理工場に、尾塔は藤田村の近くに位置していた。中央には木材を貯蔵する杉池を掘っていた、最大面積は6.2ヘクタールである。現在嘉義製材所にあるクレーンはスケールモデルである。



- 事務所 -

1941年嘉義県中埔大地震後に建てられ、「事務所」と呼ばれていた。1965年林務局労働者教育第二教育センターの事務所として使用した。嘉義市歴史建築物に指定された。



- 排気ダクトの遺構 -

パワールームのボイラーが発生する排気と熱は、排気ダクト経由で煙突より排出し、外気と対流を起こして黒煙及び熱を排出する。1964年の台南県白河大地震により嘉義市のランドマークであった煙突が崩壊、現在は断面の遺構台のみが残り、嘉義市歴史建築物に指定された。



嘉義製



東洋一の嘉義製材所

1912年阿里山林業鉄道が二万平駅まで開通したため、阿里山から大量の丸太を搬出された。1913年竣工した嘉義製材所は、日本時代の政府が運営する敷地面積が最も広い林業エリアである、当時欧米の最先端設備とスキルを有し、阿里山から伐採した丸太を保存し、「木材」になるまで加工する重要な任務を担っていた。規模が大きく、欧米の最先端設備を持つため、嘉義製材所は東洋一を誇る。

1941年（昭和16年）嘉義県中埔大地震による製材工場が倒壊したが、太平洋戦争の軍事的なニーズに応えるため、迅速に製材作業の再開しなければならないので、耐震性を求める上限られた資金で、木造建築の二代目の製材工場を建設した。

1963年政府が自然林の伐採停止令により翌年嘉義製材所の製材工場も合わせて作業を停止した、敷地内の建築物は別の用途に回された。2009年「園区整修計画」と呼ばれる再生計画を執行してからにより、製材所の昔の姿を続々と世に再現した。



製材所を散策

- パワールーム -

1913年に竣工。製材所が必要とする電力は全てパワールームの火力発電システムによって供給されていた。当時最先端の設備により製材プロセスを自動化生産にできた。建物全体はRC造で、吹き抜けしたデザインで、嘉義市歴史建築物に指定された。



- 木屑室 -

木屑保存スペースである。初代の製材工場できたの木屑は、コンベアーで木屑室へ運ばれて来て、更に別のコンベアーで火力発電機の燃料としてパワールームへ運ばれていた。今も尚コンクリート製の基盤及び落下口が残されており、嘉義市歴史建築物に指定された。



嘉義製材所エリア

エリア情報

開園時間：毎週水曜～日曜
午前9時～午後5時
(月火及び大晦日休園)
住所：嘉義市東区林森西路4号
電話：05-276-5909
無料ガイド：毎週土日午前10時及び午後2時



公式サイト



Facebook



APP

